

## 新年度に向けて

## 事故防止活動のバージョンアップ策

- 従来の活動を思い切って変えてみよう -

新年度に向けて、事故防止活動の方法を見直す時期になりました。運営基準の変更で、各施設に事故対策担当者を配置しリスクマネジメント委員会で防止対策を周知するなど、体制の整備が行われました。しかし、現場の活動はあまり変わっておらず、相変わらず同じ事故が多発している状況です。そこで、新年度に向けて従来の事故防止活動をバージョンアップして、「半分の力で倍の効果をあげる」現場の取り組みに変える方法を提案いたします。本セミナーでは、事故分析や事故報告書の変更、事故（ヒヤリハット）を分類して対策を講じる方法などをご説明します。事故防止活動や報告様式の変更は新年度が良いチャンスです。是非ともご活用ください。

## セミナーの概要

## 《1》リスクマネジメント委員会活動を変える

事故分析の方法を変える（分析チェック表による事故分析）

事故集計の方法を変える（防止責任の重い事故と軽い事故）

事故報告書と報告業務を変える（再発防止に役立つ事故情報）

## 《2》事故を区分し再発防止策の検討方法を変える

ルール違反、不適切ケアによる事故の再発防止策

職員のミスによる事故の再発防止策

対策を講じれば防げる事故の再発防止策

未然に防ぐことが難しい事故への対応策

## 《3》統一取り組みで事故防止活動を変える

「介護職員ための大切なルール研修」の取り組み

お薬確認シートによる服薬直前チェックの取り組み

施設内危険箇所総点検の取り組み

骨折防止マットの取り組み

## 《4》マニュアル活用で事故対応を変える

家族対応マニュアルで事故クレームをゼロに

過失チェックマニュアルで賠償トラブルをゼロに

原因不明の傷・アザ・骨折対応マニュアルでトラブルをゼロに

## 《2》事故を区分し再発防止策の検討方法を変える

	事故の区分	再発防止検討方法
5	どんな対策を講じても防げない事故	①事故が起きててもケガをしない対策（損害軽減策） ②家族にリスクを受け入れてもらう取組
4	専門知識・技術がないと防げない事故	③多職種の連携によって専門知識・技術を共有する ④資格取得や研修によって専門知識の習得を促す
3	基本的な防止対策で防げる事故	⑤危険箇所点検などの危険発見活動を行う ⑥標準的な事故防止対策をマニュアル化する
2	ミスが原因で起きる事故	⑦介助ミスの原因となる介助方法のリスクを改善する ⑧ミスの原因となる環境要因を改善する
1	ルール違反で起きる事故	⑨やってはいけない危険な介助方法を文書化する ⑩ルール違反による事故の罰則を周知徹底する

すぐ取り組める・成果が上がる事故防止活動  
危険箇所総点検活動マニュアル

**提供資料：**原因分析チェック表・原因不明の傷、アザ、骨折対応マニュアル・過失チェックマニュアル・家族対応マニュアル  
・介護職員ための大切なルール・危険箇所総点検マニュアル・最新事故報告書モデル（手書き版・エクセル版）など

## 研修会開催要領

■開催日時：〇月〇日13:30～17:30（約4時間）

■主催：〇〇県〇〇協議会

■講師：株式会社安全な介護 代表 山田滋

■受講料：

■受講方法：Zoomによるオンライン受講

■申し込み方法：下記URLからお申し込みください。

## 講師プロフィール

山田 滋 早稲田大学法学部卒業と同時に現あいおいニッセイ同和損害保険入社。2006年7月よりインターリスク総研主席コンサルタント、2013年5月末あいおいニッセイ同和損保を退社。2014年4月より現職。高齢者施設や介護事業者と取り組み、現場で積み上げた実践に基づくリスクマネジメントの方法論は、「わかりやすく実践的」と好評。各種団体や施設の要請により年間150回のセミナーをこなす。

## セミナーに関するお問い合わせは